

[プレスリリース]

日本勢による首位攻防戦、続く スペイン・マヨルカ島で開催中の470級世界選手権大会



初日から首位をキープする磯崎／関組（左）と追いかける岡田／吉岡組

© Bernardí Bibiloni/Int. 470 Class

スペイン・マヨルカ島で開催中の「2024年470級世界選手権大会」。決勝シリーズ2日目は14～16ノットの風で2レースが行われました。

オリンピックの代表選考を見据え火花を散らす磯崎／関組と岡田／吉岡組。今日の1レース目は岡田／吉岡組が13位、磯崎／関組が17位となり、この時点で2チームが同点となりました。

続く2レース目、追いついた岡田／吉岡組は第1マークに向かう最初のレグでレースエリアの右海面を選択。一方、磯崎／関組は左海面を選択し、今日2レースともトップフィニッシュした絶好調のドイツチームに続き、2番目でマーク回航します。レース序盤で苦しい展開となった岡田／吉岡組ですが、その後、8位まで順位を上げフィニッシュ。磯崎／関組はこのレース、3位でフィニッシュしました。第9レースまで終え、2チームの点差は5ポイントです。

吉田／吉田組は今日の第1レースで3位となり暫定12位、高山／盛田組は今日の第2レースでカットレース（レガッタ中で最も悪い成績。総合ポイントから点数を除外することができる）つくってしまい暫定25位です。

今大会はパリ2024オリンピック・男女混合470級日本代表の一次選考大会でもあり、表彰台に上がった場合、1位は総合ポイントからマイナス8点、2位はマイナス7点、3位はマイナス6点のボーナスポイントが付与されます。

【選手コメント】

磯崎哲也選手：1レース目は苦しいポジションでの展開だったが、後半で追いつけることができ良かった。1レース目を終えた時点で岡田／吉岡ペアに追いつかれたが、2レース目は自分たちの戦い方をし、良い結果に繋がって良かった。明日もこの調子で平常心のまま戦います。

岡田奎樹選手：今日は相手艇との点数を考えすぎて、風よりも相手艇の優先順位が高くなり、中展開をしてしまい、外に出てブローを使った艇に負けてしまった。2レース目はそれを改善しようと、外に出ることにトライしたが風の読みが外れてしまった。結果的には点差があまり変わっていないので、そこはホッとしている。明日は思い切ったレースが必要になってくる。そこにトライしていきたい。

【9レース終了時の成績】（参加61艇）

1位：磯崎 哲也／関 友里恵 39 ポイント

2位：Simon Diesch／Anna Markfort（ドイツ） 43 ポイント

3位：岡田 奎樹／吉岡 美帆 44 ポイント

12位：吉田 愛／吉田 雄悟 77 ポイント

25位：高山 大智／盛田 冬華 104 ポイント

大会公式サイト：<https://2024worlds.470.org/en/default/races/race>

成績表：<https://2024worlds.470.org/en/default/races/race-resultsall>

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

日本セーリング連盟広報委員会 kohou@jsaf.or.jp
または 西 朝子 sailingnishi@gmail.com 090-1042-9262

JSAF 公式サイト <https://www.jsaf.or.jp/>
オリンピック強化委員会サイト <http://jsaf-osc.jp/>